

第2回千葉県職業能力開発推進検討会 議事録

1 日 時 令和4年11月30日(水) 10:00~11:30

2 場 所 千葉県教育会館203室

3 出席委員(敬称略)

学識経験者	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 千葉職業能力開発短期大学校	校長 下町 弘和
事業主代表	千葉県職業能力開発協会	会長 赤星 健二
	千葉県中小企業団体中央会	副会長 熊谷 正喜
労働者代表	日本労働組合総連合会千葉県連合会	事務局長 中島 正敏
	全日本電機・電子・情報関連産業労働 組合連合会 電機連合千葉地方協議会	事務局長 野田 泰造
行政関係者	千葉労働局職業安定部	訓練室長 太田 克明

以上 出席委員6名
千葉県高等学校教育研究会進路指導部会部会長の山本昭博委員は、所用のため欠席。

4 会議次第

- 1 あいさつ(高橋産業人材課長)
- 2 議題
第11次千葉県職業能力開発計画案について
- 3 その他

5 議題に係る検討の概要

○ 事務局

「第11次千葉県職業能力開発計画案

第5 職業能力開発に関する基本方針と施策」について説明

○ 下町会長

計画期間内に実施すべき取り組みについて説明をいただいた。今回説明のあった部分も含めて、全般的にご意見をいただければと思う。

○ 熊谷委員

高等技術専門校の訓練科の見直しについて、我孫子校と旭校のNC機械加工科を船橋校に移転するという説明があったが、定員20名に対して入校者3名とか、定員15名に対して4名とか低い入校率であるので、船橋校に統合するという考えだと思うが、現実的に、旭校には4名入校している。旭校のNC機械加工科を希望する方は、船橋校にはおそらく通えない。そのあたりの対応はどうしていくのか。また、定員を5人とかに減らすことはできないのか。

○ 下町会長

私もその点について危惧している。船橋校の機械技術科に統合ということは、定員を増やすとか、別の訓練科を設定するとか、何かそういう考えがあるのか。

また、(我孫子校と旭校の)設備が無くなるが、指導員定員にどういう影響が出てくるのか。計画案の8ページに、職業訓練指導員の配置状況の推移という表があるが、毎年採用されているので、現在55名であるが、今後、統廃合も含めての計画になるのかと思うが、指導員が減ると千葉県での職業能力開発の手厚い部分が無くなっていく。

○ 事務局

我孫子校と旭校に、NC機械加工科を設置しているが、指導員の配置が1人という状況である。入校生が少ないので、2人配置ができないところである。1人ということは何か事故があった場合、訓練の安定的運営が難しい。

銚子方面から船橋校に通にくい状況があらうとは思いますが、限られた指導員を集中的に投入して、安定的に訓練科を運営できるようにするため、船橋校に統合していきたい。

高等技術専門校は、現在6校体制であるが、昔は10校体制で、館山、芝山、長生、千葉があった。これまでは行革の色彩が濃く、順次、廃校にしていった。廃校する場合には訓練科を移転、または民間の専門学校で対応できるところは民間に任せるという大きな考え方の中で、この6校体制になっている。

機械系訓練科の統合については、大きな考え方としては、指導員の確保がある。指導員採用の取組みとして、職業能力開発総合大学校にリクルートに行き、就職担当部署をお願いしているが、なかなか確保できない。国の基準では訓練生10人に1人指導員をつけなくてはならない。

機械系訓練科であれば、本来あと1名配置しなくてはならないが、うまく指導員の採用ができない。また、指導員1名だけでは、何か事故があったり、コロナ感染症の状況などを例にとれば、1人の指導員では対応できなくなってしまい、訓練生に対する対応ができない。校を運営する立場と、人事面の難しさがある。さらに設備については、船橋校に最近マシニングセンタを整備した。船橋校にはそういう機械があって、我孫子や旭には、古い機械しかないというアンバランスもある。就職を目指す訓練生を送り出す立場からすると、機械設備が同等な状況で訓練をしなければならない。

機械設備の有効活用、訓練生への機会の提供といった側面、そういったことも勘案して、今回の案にした。熊谷委員がおっしゃるとおり数名、在校している訓練生がいて、もしかしたら、旭校に数年後に通いたい生徒がいるかもしれない。そういう方たちには、当然早めに周知して丁寧にご説明するのと、他の施設等でできないかという案内も含めて、ご理解をいただければと考えている。

○ 熊谷委員

設備面などいろいろ問題があることがわかった。

○ 赤星委員

基本的には、人口減少社会なので、皆さん本当にご苦労されている。これは、大きな、国が抱えている課題だと思う。

そうは言いながら、経済が成り立っていかなければならない。中小企業の存在感は大きく、雇用の7割だし、法人数は99%。

○ 下町委員

機械系ということで、基幹産業が縮小していくことに対して、何か寂しいところはあるが、諸般の事情があるということだった。

旭校は、自動車整備科のみになるという方向性か。

○ 事務局

今決まっている範囲では、旭校には自動車整備科だけが残る。一方で、物流関係科の設置検討があって、きっかけは成田空港の機能強化や、圏央道の全線開通などの物流需要を念頭に置いている。6校のうちどこに設置というのはないが、来年度ニーズを探りながら、検討していきたい。

○ 下町会長

今後、検討して旭校に物流関係科を設置する可能性もあるということか。

○ 事務局

旭校も含めた5校で検討するということである。

○ 中島委員

目標に関することで、人口減少の中で入校率を掲げると苦しい設定になってくるのではないか。

また、概要を見ると、計画の趣旨、課題と流れて基本方針を4つ挙げているところだが、基本方針ごとに施策を展開するので、それぞれに対して目標があった方が、わかりやすいと感じる。

突然、入校率や就職率とあるので、施策に対する目標との紐づけがわかりにくい。結果として入校率や就職率にまとまると思うが、基本方針に対する目標があった方が、施策を展開する上で達成できている、いないが把握しやすいと感じた。今回は、これでもいいとは思いますが、そういったことも検討いただければと思う。

○ 下町会長

それぞれの基本方針について目標があったほうが、成果を測りやすいのではないか

ということだった。

全体的に統括した形での目標設定になっているので、どちらかといえばこちらの方が、よりわかりやすいものになるのではないかと思います。御検討お願いしたい。

○ 野田委員

43ページの目標の上2つは「現状の水準以上とする」となっているが、これが目標となるのか、現状維持ではないかという印象を受ける。高みを目指すところを目標に掲げるのが一般的なのかなと思う。

ネットで埼玉の入校率を見ると、千葉より入校率が高かった。人口状況や地域状況で違ってくると思うが、埼玉以上を目指すとか、直近の他県の状況や参考となるものがあった方がいいかと思う。

高校生の認知度のところの取組みのひとつがホームページのリニューアルだと思うが、そこに誘導する仕組みを工夫することを検討いただきたい。ホームページをリニューアルして、見やすく分かり易く改善できると思うが、それだけで認知度を高め、けん引するというのは難しいと思うので、そこに誘導していく工夫、ワンクッションの仕組みを検討された方がよいと思う。

○ 事務局

埼玉県の入校率（が高いこと）については、私共も承知している。どうしたら入校率が上がるのか、なぜ（埼玉の）入校率が高いのか。各県の広報媒体などを取り寄せて、検討を進めている。

実施目標については、商工労働部内で、いろいろ議論をした上で設定したのだが、おっしゃるとおり、「現状の水準以上とする」というのは積極的、野心的ではないとの認識も理解できる。私共も最初は、5年間、これだけ施策を新規・拡充でやって、それで現状維持でもいいのかという考えはあった。しかし、現状で、入校率がここ数年低下傾向にあり、まずは低下に歯止めをかけたいという思いが強い。人口減少、少子化、認知度不足、大学進学率の高さなど技専に来てくれない様々な要因が絡んでおり、V字回復は難しい。しかし、これだけの施策を掲げてやる以上は、それ相当の目標を掲げなければならない中で、この設定は、そのように映ることは認識しているが、本計画以降で歯止めをかけたいというところで、こういった表現とした。

今回、訓練科の新設や統合に合わせて、ハード的な実習棟や管理棟の施設整備をすることとした。ソフト系のホームページについては、長い期間、中身を変えていなかったが、今回、リニューアルすることとした。野田委員ご指摘の誘導方法について、ホームページを見ていただかなければ知ってもらえないので、皆さんの意見も踏まえ、他県、他の事例も含めて、工夫をしていきたい。

○ 下町会長

実施目標については、歯止めをかけたいことはわかるが、5年というスパンであるので、そこら辺はどうなのかなと私も感じていたところ。

○ 赤星委員

現状の入校率の56.9%について、中学生、高校生や学校の先生に対して、ものづくりや産業界プロモーションによって理解を促すようなことを留意していただきたい。日本は、時代変化に対応している企業があるので、学校の先生方に、そういう理解をある程度していただけるような場面があったらいい。

○ 下町会長

そういう場面も、今後やっていただけることになるのか。

○ 事務局

技専の入校生の半分は高校新卒者である。県立高校の先生と、おつき合いをさせていただいているが、赤星委員がおっしゃられたことも含めて、より深い、響くようなものを仕掛けられたらと思う。今後、検討する。

○ 下町会長

高校生の高等技術専門校の認知度について現状が19.7%。それを30%以上にするというのは、認知度が上がることで、まさに結果として入校率も上がってくると思う。この目標は非常に良い目標だと思う。

○ 野田委員

私ども、電機関係の企業では、ものづくりをやっていない部署では、在宅勤務やオンライン環境がコロナ禍で加速をした。高等技術専門校では、オンラインでできることとリアルでないといけないこともあると思うが、現状ではどのようになっているか。

○ 事務局

コロナ感染症拡大の関係で、全校にオンライン訓練ができる環境整備を行った。コロナ禍の中で休校になった場合や通所できない訓練生に対してオンライン訓練を実施した。少し落ち着いてきた時期には、年間目標として、学科訓練時間の10%をオンライン訓練で実施するなど、アフターコロナのところで、オンライン訓練が普通に浸透していくような取り組みも始めている。

○ 下町会長

オンライン訓練については本校(ポリテクカレッジ)でも行っている。オンライン機器の取り扱いや、オンラインの環境下で受講することで、DXのひとつのきっかけとしての効果も期待できると思う。オンラインで会議をすることも当たり前となっている時なので。

そういう意味では、今回の基本方針や施策の中にDXやGXの取り組みをちりばめられればと思う。

25ページで、高等技術専門校の全ての訓練科でITリテラシーに係る訓練の実施と

あるが、IT リテラシーと言うと、一般的に入力をするとか、情報処理するとか、ワード、エクセルといった内容だが、例えばDXは何だろうとか、そういうDXの要素、要するにデジタルを活用して何かできるかという発想を入れると、より未来を見越した、充実した内容になると思う。

○ 太田委員

計画の41ページにある、千葉労働局・ポリテクとの連携による職業能力開発の推進について、お話をさせていただく。

千葉県地域職業能力開発促進協議会の設置ということで、事務局からも、従前の千葉県地域訓練協議会から名称変更して、新たに発足した協議会であるとの説明があった。この協議会については、今年度の職業能力開発促進法の改正に伴い、法律の中に明記されたことによって、新たに設置されたものである。従前、千葉県地域訓練協議会は千葉労働局が設置運営していたところだが、今年度から千葉県と千葉労働局が、共催とした上で、運営していくこととなった。

この協議会の中でも、様々な地域の関係者、関係機関の方にご参集いただき、職業能力開発に関する有用な情報を共有しつつ、地域の実情やニーズに即した公的職業訓練の設定・実施、また訓練効果の把握検証を行うこととしている。

先日、11月10日に第1回の協議会が開催され、その中で、次年度の訓練計画策定にあたっての取組みとして、デジタル化の進展による労働者に求められる能力の急速な変化に対応するために、デジタル推進人材の育成であるとか、人材不足分野、介護・保育、建設等の人材確保に向けたコース設定、また、企業における人材開発・労働者による自律的主体的かつ継続的な学び直し、まさに今回の11次計画の中の基本方針1にある内容が、協議会の中でも確認をされた。

協議会で設定する、地域訓練実施計画は単年度計画ではあるが、千葉県が策定する中長期計画とリンクしながら、協力して、よりよい人材・能力開発を目指して推進していきたいと考えている。

最近、企業の方から、能力開発について様々な意見を頂戴することがあり、国としては、在職者に対する能力開発として、人材開発支援助成金などの活用の周知啓発をしているところである。人材開発支援助成金は、従前からあるが、計画に沿って企業が、労働者に対して訓練を実施した場合に、訓練中の賃金であるとか、訓練にかかった経費の一部を国が助成する制度となっている。

特に今年度、先ほど、会長からも話があったが、現在、デジタル人材の能力開発という意味では、新たに「人への投資促進コース」を創設して、利用促進を図っている。企業の皆さんにおいても、そういった助成制度を活用しながら、さらなる能力開発に取り組んでいただければと思う。引き続き、千葉県と連携しながら、労働局としても協力していきたいと思う。

○ 事務局

先ほど簡単にご説明した39ページの校名変更のところ、現在、正式な名称は高等

技術専門校で、それ以外に愛称も使用し始めて5、6年経過したが、なかなか芳しい結果が出ていないという中で、やはり名前が硬いのではないかという意見があった。

県の職員の中では、技専というとは大体通じるが、高校生や高校の進路指導の先生にはどうかというところもあって、もう少しやわらかい、わかりやすいネーミングにしようというのを検討している。

そこで、これから入校する高校生や技専の訓練生の方、若手の県職員の中で、意見をアンケート形式でいくつか出してもらって、それを産業人材課で選別をして、数個ぐらいいに絞った上で、委員の皆様、こういう理由でこういう名前が上がってきたということをお見せして、ご意見を頂戴した上で最終的に私共として決定させていただければと思っている。年明けになろうと思うが、ご協力をお願いしたい。

○ 下町会長

やはり若い人に聞いた方がいいのではないかと思います。それについて、またご相談があるということだった。

計画案の6ページに各校の特徴的な取り組みの例ということで表が掲載されているが、このようなことをやって知名度を上げていくというのもひとつの大きなやり方だと思う。私共もここには力を入れている。その中に、若年者ものづくり競技大会について、今年度、「ITネットワークシステム管理」に出場したという記載がある。34ページの職業能力開発協会との関連もあると思うが、ぜひ、「工業分野等の未来を担う若者の確保・育成」の部分に、「若年者ものづくり競技会の参加促進」など、取組内容などを入れていただければと思う。若い方々に見てもらって、「私も！」というふうにと考えていただければと思う。今年度、千葉県から3名の方がトライアルされたと聞いている。私共のところでは建築大工で賞をいただいたので、これは学生・訓練生にとってのモチベーションに非常に繋がるので、そういう取り組みも、積極的にお願いしたい。

○ 赤星委員

職業能力開発協会の活動であるが、現場は、費用圧縮しながら、非常に前向きにデジタルに取り組んでいる。それから、外国人労働者問題、国の政策がすぐ変わるが、よく対応されていると思う。

○ 下町会長

技能振興という意味では、職業能力開発協会がかなり力を入れていると認識しているところ。

その他、何か事務局であるか。

○ 事務局

先ほどお願いさせていただいたが、今後、校名変更について高校生などを対象にアンケートを行う予定である。

それをとりまとめたら、候補案等について、委員の皆様にご意見を伺いたいと思う

が、おそらく年末とか年始のタイトな期間でお伺いさせていただくことになろうかと思う。どうぞ協力の方よろしくお願ひしたい。

○ 下町会長

議論の方は、いろいろご意見をいただいた。概ねご意見は出たと思う。

ぜひとも、本日いただいたご意見について、事務局で整理いただいて、今後の検討に役立てていただければと思う。

他に、ご意見等ないようなので、これをもって、終了とさせていただきたい。